

ウーラノス

January 2009

Vol.29

Orpallios

会輝く

ドイツからの留学生 ユリア・ベルグさん

子供の頃から日本のアニメが好きで、日本に興味を持つようになりました。ドイツの大学(トリア大学)では、日本学を専攻していました。授業の一環として訪れた仙台のことがすっかり気に入りました。本格的な留学を決意しました。現在は歴史や文化など、さまざまな観点から日本のことを学んでいます。なかでも平安時代の文化に興味があるので、できれば古文も勉強しながら、もっと専門的な知識を深めたいですね。キャンパスがきれいで、たくさんの人と友達になることができるのは、東北学院大学の魅力です。仙台には今年の夏までいますので、七夕を見ることを楽しみにしています。

 **東北学院大学**
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY



東北学院廃校の危機 — 卒業生の献身的な活躍で危機を回避 —



学長
星宮 望
Nozomu HOSHIMIYA



「我がが学び舎—東北学院—」

東北学院大学の学長室に、「我がが学び舎—東北学院—」という大きな絵(横108cm、縦90cm)が飾られています。この絵は、学校法人東北学院の長い歴史そのものともいえる旧東北学院の建物を描いたものです。火災や戦災で焼けたこともありましたが、最近まで東北学院中学・高等学校の建物として使われていました。しかし、中学・高等学校が小鶴新田地区に移転後は、姿を消してしまいました。第2代院長のシュネーダー先生が心血を注いで建設された建物で、永年、東北学院の歴史を見守ってきました。この絵は、昭和30年代に私が東北学院中学・高等学校に在学していた当時の美術教師であった小山喜三郎画伯(現在、宮城県芸術協会理事長)に、私がわずかな謝礼にて、個人的に依頼してオリジナルに制作していただいた貴重な絵です。本来ならば、このような高名な画伯に依頼することはほぼ不可能なことです。あえて、長年(100年間にわたって)、東二番丁に存在していた東北学院の姿を後世に残すためにお願いした次第です。小山先生は、この勝手な願いに対して、前向きに取り組んでくださり、約14ヶ月の制作期間のご努力の末に完成したこの作品を私に届けてくださいました。この間、東北学院高等学校の美術部の卒業生なども協力してくださったとうかがっております。大変貴重なそして記念となる絵画です。この東北学院赤レンガ校舎にも

かかわる東北学院廃校の危機について記したいと思っています。

時は、太平洋戦争の末期です。日本の敗戦の兆しが濃厚になった昭和18年(1943年)10月18日に、東北軍管区司令官東海林俊成少将から東北学院に対して、「東北学院は時局柄、不要不急の教育機関であるから、今年限り廃校とし、校舎は軍において接収する」との命令が出されました。この当時の軍の命令は絶対的であり、回避は不可能と思われました。いいかえれば、東北学院は廃校になることが決定的でした。

そのときに立ち上がり、この危機を救ったのが、東北学院卒業生であった萱場資郎氏でした。彼は、仙台市の出身で、明治45年(1912年)4月、東北学院普通科に入学し、第2代院長のシュネーダー先生の薫陶を受けた卒業生で、“ハイテク軍需企業”である「萱場製作所」の経営者でした。

この回避不可能と思える軍からの命令にどのように対応するかは極めて困難でした。そこですぐに、当時の東北学院の出村悌三郎院長が、急遽、萱場資郎氏に相談しました。萱場氏は、当時、陸海軍の機密兵器の特許を多数保有しており、萱場製作所は新兵器の製造も盛んに行っており、軍にとっても重要な人物であったので、軍に対する発言力がありました。

萱場氏は出村院長と相談し、この軍の暴挙ともいう

べき命令を撤回させる方策を考えました。最終的には、東北学院を当時必要であった「航空技術学校」に転換させることにしました。具体的な案は、「陸軍航空本部、海軍技術部は、東北学院航空工業専門学校」の設立を支持する。萱場製作所仙台工場は学生の実習工場とする。よって、「東北学院の廃校、校舎の接収は取りやめてもらいたい」というものでした。これを当時の東海林東北軍管区司令官に対して強力に要請した結果、最終的には、「廃校と校舎の接収命令」は撤回され、東北学院は非常事態をようやく免れることができました。

実際に「東北学院航空工業専門学校」の開設にあたっては、当時の東北帝国大学工学部長の宮城音五郎教授が、東北学院航空工業専門学校長を兼務することも決定し、萱場製作所からの全面的な援助を前提とした計画が策定されました。昭和19年3月23-25日に入学試験を行い、昭和19年4月に開学することが決定されました。入

学定員は、航空機科100名、発動機科50名、修業年限3年とされてきました。このような涙ぐましい努力が功を奏し、最終的には、「東北学院の廃校」は撤回されることになりました。

その後、皆さんご存知のように、日本はポツダム宣言を受諾して昭和20年8月15日に、「無条件降伏」をしました。したがって、「東北学院航空工業専門学校」も用を成さなくなり、同年9月には「東北学院工業専門学校」と名称を変更し、大幅な学科改組を行いました。昭和22年3月には廃止され、同年4月に新たに文経の専門学校が設置されることになり、これが昭和24年に発足した新制東北学院大学の始まりにつながりました。

萱場資郎氏は、まさに聖書の教えである「地の塩」の役割を果たされた先輩であります。このような素晴らしい先輩がおられたことを誇りに思い、また、感謝したいと思います。



大学の“知の財産”を 広く地域社会へ

「地域社会に貢献できる大学」として、着実な歩みを続ける東北学院大学。大学での研究や教育の成果を広く社会に開放することで、社会人としての教養を高め、文化の向上に貢献していこう。そんな目的で開講している公開講座も、地域貢献の具体的な形の一つです。

2008年度の秋から冬にかけてもバラエティー豊かな講座をラインナップしました。例えば「東北地方と自動車産業」や「一次史・資料からみた“歴史”像」、「市民生活と法」など、より関心の高いテーマに迫りながら、生涯学習という側面から地域の皆さんのキャリアアップをお手伝いしています。

今年度の公開講座を受講していた市民の皆さんに伺ったところ、「4~5年前から参加していますが、身近なテーマが多いので、いつも楽しみです」、「自分自身の生涯学習のつもりで参加していますが、学びたい分野がだんだん増えていきますね」、「今度はぜひ友人も誘おうかと思っています」などといった感想が聞かれました。

地域の皆さんの「学びたい」気持ちに応える公開講座。本学では、今後もさらに内容の充実を図りながら、大学の“知の財産”を広く地域社会に提供してまいりたいと考えています。公開講座については、研究機関事務課(TEL.022-264-6405)までお問い合わせください。



※2009年4月以降の公開講座は、決まり次第、大学のホームページ等でお知らせいたします。

貢献する 卒業生 骨髄バンクを通じて、 宮城とイタリアの架け橋に



現在は名取市教育委員会にお勤めの山本さん。

本学の卒業生の熱い思いがきっかけで、宮城骨髄バンク登録推進協議会とイタリアの骨髄バンク「ADMO(アドモ)」の交流が生まれました。

宮城とイタリアを結ぶ架け橋となったのが、山本佳さん(経済学部卒業)です。今から数年前、白血病という思いもよらぬ病に襲われて、最愛のご主人を亡くされた山本さんですが、「骨髄バンクのボランティアをしたい」という病床でのご主人の想いを受け継いで、骨髄バンクの活動に参加しました。やがてご主人の残したメッセージを世界中に届けようと思ひ立ち、ご主人の憧れの地であったイタリアへ。さまざまな人との出会いに支えられながら、国際交流の芽を育みました。

現在も仕事の合間を利用して、ドナー登録会場での説明や街頭でのチラシ配布など、骨髄バンクの活動に取り組む山本さん。「骨髄移植を受けて元気になったという声が届いたときは、喜びもひとしおですね。これからも骨髄バンクについて、より多くの皆さんに正しい情報を伝えていければと思っています」。



自らの経験を綴った著書「イタリア空二君想つ」(本の森発行)の中には、今を大切に生きよう、そして「生きるということ」について一緒に考えようという山本さんの想いが凝縮されています。



骨髄バンクに関するお問い合わせは、骨髄移植推進財団(フリーダイヤル0120-445-445)まで。

01 “祭高潮” に盛り上がった大学祭！

10月12日(日)～13日(月)の泉キャンパス祭(泉キャンパス)、10月17日(金)～19日(日)の六軒丁祭(土樋キャンパス)。2008年度の大学祭は、すべての人に最高潮に楽しんでもらいたいという熱い想いを込めて、“祭高潮”をメインテーマに、延べ5日間にわたって開催されました。

泉、土樋の両キャンパスでは、迫力満点の特設ステージをはじめ、あれこれ工夫を凝らした出店や、教室での展示、発表など、各サークル・団体が自分たちの個性を思う存分、発揮していました。出店を構えていた学生からは「活気があって楽しいです」、「仲間意識がますます高まりました」、「一般の方にも来てもらえたのは嬉しいですね」などといった声が聞かれました。また、大学祭実行委員会のスタッフにも尋ねたところ、「準備を始めたのが5月頃。企業の協賛を集めたりするのは大変でしたけど、やり甲斐はあります」、「夜遅くまで準備に追われて、かなり苦労しましたが、みんなに楽しんでもらえて最高です」と、それぞれ満面の笑顔で応えてくれました。

六軒丁祭の初日(17日)には、大学祭を広くPRするために、仙台市中心部のアーケード通りで、華やかな仮装パレードが繰り広げられました。



工学部祭も、やる気満々!!

2008年度の工学部祭は、10月11日(土)～12日(日)の2日間、多賀城キャンパスを会場に開催されました。今回のテーマは“キセキ”。多くの先人たちが創ってきた研究や実験の「軌跡」と、人とのつながりによって生まれる「奇跡」の時間や空間を大切にしたいという2つの“キセキ”が、そこには込められていました。

ステージ企画やサークルによる露店、研究室の公開など、工学部ならではの個性が輝いた工学部祭。恒例となったチャリティ・バザーには、地域の皆さんがたくさん詰めかけていました。



02 大好評！ オープンキャンパス2008

8月2日(土)～3日(日)、泉キャンパスと多賀城キャンパスを会場に「オープンキャンパス2008」が開催されました。

学科ガイダンスや入試説明、個別相談、模擬授業など、さまざまなメニューが用意され、早い時間帯から詰めかけた高校生たちは、ひと足早い“学院大生”を体感しました。何人かの高校生に声をかけたところ、「学院大が第一志望です。キャンパスに来たのは初めてですが、これなら明るい雰囲気です」(福島県・男子)、「キャンパスが広くて、とてもきれいなのはびっくり。想像以上に、いい雰囲気ですね」(秋田県・男子)、「模擬授業に出たら、ますます興味が湧いてきました。できればサークルのことも知りたいです」(宮城県・女子)などといった感想が聞かれました。

また、10月には大学祭のシーズンに合わせる形で、工学部オープンキャンパス(11日)と教養学部オープンキャンパス(12日)も開催されました。



03 青山学院大学との二部交流定期戦・ 北海学園大学との二部総合定期戦

8月9日(土)、第31回青山学院大学対東北学院大学二部交流定期戦が、本学の泉キャンパスを会場に開催されました。前の日は北京オリンピックの開会式でしたが、どの種目もオリンピックに負けないほどの熱気に包まれていました。試合結果は3勝3敗(青山学院大学の遠征勝)で、本学は惜しくも総合優勝を逃しました。

また、9月6日(土)には北海道立総合体育センターと北海学園清田グラウンドを会場に、第27回北海学園大学対東北学院大学二部総合定期戦が開催され、見事本学が4勝3敗で総合優勝を果たしました。



04 第20回泉キャンパスクリスマス・ 第59回公開東北学院クリスマス

12月5日(金)、泉キャンパス礼拝堂では「第20回泉キャンパスクリスマス」が行われました。礼拝説教とクリスマスコンサートという二部構成で、第二部のコンサートでは、パイプオルガンの演奏や聖歌隊による合唱、キャンドルサービスなどが披露され、場内は楽しい雰囲気に包まれていました。

また、12月12日(金)には土樋キャンパスのラーハウザー記念礼拝堂で「第59回公開東北学院クリスマス」が行われました。聖歌隊と室内アンサンブルによるオラトリオ「メサイヤ」の演奏は感動的。地域の皆さんとともに、クリスマスムード一色の厳かなひとときを過ごしました。



05 平成20年度 東北学院大生のための合同企業セミナー

9月18日(木)、仙台市宮城野区の仙台サンプラザホールを会場に「東北学院大生のための合同企業セミナー」が開催されました。2009年3月卒業予定の学生(現4年生)が対象で、地元企業や上場企業など80社が参加し、どの学生も真剣な面持ちで各企業の担当者の説明を聞いていました。

何人かの学生に声をかけたところ、「一カ所で複数の企業の担当者と面談できるのはありがたいです」(経済学科・男子)、「担当者の声が直接聞けるので、とても参考になります」(電気情報工学科・男子)、「会社の違いがよくわかって、自分自身の視野も広がりました」(英文学科・女子)、「もっと頑張らなければという気になりました。ぜひ意中の会社を見つけたいですね」(経済学科・男子)などといった感想が聞かれました。



06 インターンシップ・ 大学と企業と学生の顔合わせ会

7月16日(水)、インターンシップを希望する3年生を対象とした「大学と企業と学生の顔合わせ会」が開催されました。会場となった仙台市青葉区の勝山館には、66社の企業と196名の学生が参加。インターンシップを希望する企業ごとに分かれて、綿密な打合せが行われました。緊張した面持ちの学生からは「せっかくの機会なので頑張りたいです」、「ぜひ自分に合う仕事を見つけたいですね」といった声が聞かれました。



07 教養学部創設20周年記念 おいしい教養バイキング

教養学部は、2008年度に創設20周年を迎えました。これを記念した行事の一つとして、10月18日(土)、仙台市青葉区の仙台国際ホテルを会場に「おいしい教養バイキング」が開催されました。33名の講師によって行われた“ミニ講義”には、在 student や高校生、卒業生、一般の方など、多くの皆さんが参加し、さまざまなテーマの中から、自分の興味のある講義を選んでいました。卒業生の皆さんからは、あちこちで「懐かしい」という声が聞かれ、かつての恩師に近況を報告する姿が見られました。また、この日は教養学部の同窓会設立総会や、記念式典も行われました。

20周年記念行事としては、10月4日(土)と12月13日(土)の「地域社会と教育を考えるフォーラム」(第3~4回)や、12月2日(火)の「教養学部20周年記念演奏会&トーク」なども行われました。



08 平成20年度ホームカミングデー (第9回同窓祭)

「いや、懐かしいねえ」、「お久しぶりです」——。爽やかな秋晴れが広がる10月4日(土)、平成20年度ホームカミングデー(第9回同窓祭)が開催されました。

会場となった土樋キャンパスのラーハウザー記念東北学院礼拝堂には、多くの同窓生が顔を揃え、記念礼拝や記念式、名誉教授による特別講義、パイプオルガンコンサートが行われました。記念式では、同窓生を代表して仙台市役所TG会長の鳴海渉氏が挨拶に立ち、特別講義では元経済学部教授の山本新一氏が「最近の国際経済情勢」をテーマに講義を行いました。また、夕方からは仙台市青葉区の江陽グランドホテルを会場に、懐かしい出会いの夕べ(記念パーティー)も開催されました。



同窓生と母校をつなぐ情報の架け橋として「東北学院同窓会公式ホームページ」が開設されました。
<http://www.tg-alumni.jp>

09 第二回WRO Japan東北地区予選大会



8月6日(水)、東北学院中学・高等学校を会場に「ワールド・ロボット・オリンピック(WRO)」の東北地区予選大会が開催されました。第2回目の開催となったこの大会には、宮城県や山形県の高校から15チームが参加し、東北学院中学・高等学校や東北学院榴ヶ岡高等学校からも有志のチームが出場しました。

主催はWRO Japan東北地区予選実行委員会、東北学院中高大一貫教育会議IT教育委員会が共催。学校法人東北学院では「東北学院中高大一貫教育会議」を設置していますが、IT教育に重点を置き、ロボット教材による高大生交流授業などを行っています。

また、7月には「ロボット製作講習会」も行われ、本学の学生(4年生と1年生)がTA(ティーチング・アシスタント)として指導をサポートしました。

10 留学生による柔道体験 (土樋キャンパス)

10月23日(木)、土樋キャンパスの柔道場で、留学生の皆さんによる柔道体験が行われました。



ほとんどの留学生にとって、柔道は生まれて初めての体験。最初はさすがに緊張気味でしたが、だんだんと畳の雰囲気にも慣れてきて、立ち技や寝技など、柔道の基本をひとり体感していました。稽古後は声を弾ませながら「楽しかったです」、「またやりたいです」と笑顔で話してくれました。

11 せんだい・みやぎオータム セミナー2008(土樋キャンパス)

市民相互の学び合いを通じて、新しい自分を発見しよう——。そんな目的から「せんだい・みやぎオータムセミナー」(本学共催)が10月13日(月)、土樋キャンパスで開催されました。



当日は150名を超える講師陣が、生き方や仕事、夢など、独自のテーマをもとに講座を開き、大学生や高校生、社会人など、さまざまな年代の皆さんが受講していました。当日、キャンパス内には本学の入試相談コーナーも設置されました。

自然の中で
釣りを楽しむ



山崎先生

教養学部

私が夢中になっているのは釣ります。故郷の米子では、子供の頃、よく祖父に連れられてハゼ釣りに出かけたものですが、今から10年ほど前、「またやってみようかな」と思って始めました。自宅が塩釜なので、よく浦戸諸島へ行ったり、雄勝まで足を伸ばしたりしています。

潮風に吹かれながら、大海原と向き合うのは気持ちがいいものです。ゼミ合宿では、学生たちと一緒に釣り糸を垂れるのが恒例になっています。大物が釣れたときは喜びもひとしお。カレイやアイナメ、ハゼなど、釣った魚は自分で料理することもあります。そのときの味は格別ですね。40センチを超えるイシガレイを釣ったときなんかは、興奮のあまり手が震えてしまいました。

友人を誘ったりして、よく釣りに出かけています。夢は中国で釣りをすること。作家の開高健さんみたいに、世界中で釣りができれば最高でしょうね。

(山崎 冬太／フランス文学、表象文化論)



イタリア旅行でのひとコマ。
どこへ行くにも釣り竿は欠かせません。

いつかは
ホームシアター



阿部先生

経済学部

昔から映画が好きで、よく劇場に足を運んでいました。かつては仙台の中心部にも映画館がたくさんありましたからね。名画座とか東映とか、自分にとっては“庭”みたいなものでした。

今はもっぱらレンタルDVDやケーブルテレビで楽しんでいます。映画やテレビのシリーズものは、ジャンルを問わず、幅広く観ています。

最近凝っているのは、イギリスのスパイアクション「MI-5」や、アニマルプラネットという環境をテーマにしたチャンネルの「ビッグキャット・ダイアリー」シリーズなどです。「ビッグキャット・ダイアリー」は、ライオンやヒョウ、チーターといった大型ネコ科の動物を追いかけている番組ですが、大自然がおりなすドラマを通じて、あれこれ考えさせられています。

自分の子供たちが映画館でアルバイトをしていると聞いたときは、さすがに嬉しくなりました。夢はホームシアターを買うこと。いつかはお気に入りの1本を、ぜひ大画面で楽しみたいです。

(阿部 重樹／社会福祉論)



あるレンタルショップでは、貸し出しランキングの上位に名前が載ったこともあるとか。新作のチェックも万全です。

躰道の魅力を
広げたい



遠藤先生

工学部

大学(東北学院大学工学部)時代から躰道(たいどう)をやっています。躰道というのは、沖縄空手を源流とした武道で、今から43年ほど前に祝嶺正献(しゅくみねせいけん)先生の手によって生まれました。

特徴としては「突く・蹴る」のほかに、「かわす」というディフェンスの要素が加わる。「よけながら攻める」とでもいったらいいのか、よくカンフー映画などでバック転や宙返りをしながら空手を使うシーンを見かけますが、イメージ的にはそれに近いものがあります。

大学では躰道部の部長を務めましたが、全国大会の団体戦(“型”の部)で準優勝を果たしたのは、大きな思い出の一つ。その頃はまだ体育館がなかったため、工学部の近くの原っぱや、仙台新港の砂場まで出向き、バック転や宙返りの練習に励んだものです。かつては30人ほどいた部員も、今では5人に減ってしまいました。この春には、ぜひ新入部員を増やして、躰道の魅力をさらに広げていきたいですね。

(遠藤 春男／材料力学I)



全国で準優勝を成しとげた躰道部(最前列の左から3人目が遠藤先生)。



躰道は健康の増進にも最適です。

一つのテーマに対して、学生や教職員たちはどう思っているのか、キャンパス内の声を集めたこのコーナー。2009年に、ぜひ実現したい夢や目標を聞いてみました。

いよいよ4年生。広告関係の仕事に就くのが夢なので、就活を頑張りたいです。

3年生・遠藤さん



パソコン関係や漢検、英検など、いろいろな資格をめざして、自分磨きの一年に。

3年生・佐藤さん



かけがえない“食”を守りたいから、食品関係の仕事に就くのが目標です。

3年生・森さん

就職を早めに決めて、仲間とともに学生生活最後の大学祭に燃えます。

3年生・鈴木さん



就職が決まって、4月から社会人に。自分を選んだ道なので、精一杯頑張ります。

4年生・会田さん



大学の仲間は、一生の仲間。毎日を大切に、思い出をたくさんつくりたいです。

3年生・熊谷さん



学生生活最後の年。ずっと笑顔をもっと頑張ります。

3年生・石田さん



最高の仲間と最高の思い出。そしてこれからも、ずっと仲間で……。

3年生・佐藤さん

夜間連のバスケットボール部に所属。在仙リーグの一部昇格が目標です。

3年生・氏家さん



2009年も飛躍の年に。留学を希望する学生の夢をサポートします。

国際交流課・泉田さん



学生生活もラストスパート。人生の中で一番輝いてみせるぞ。

3年生・高久さん



多くの学生に読書の楽しみを知ってもらえるように、さらに魅力あふれるお店づくりに努めます。

東北学院大学生協
・五十嵐さん



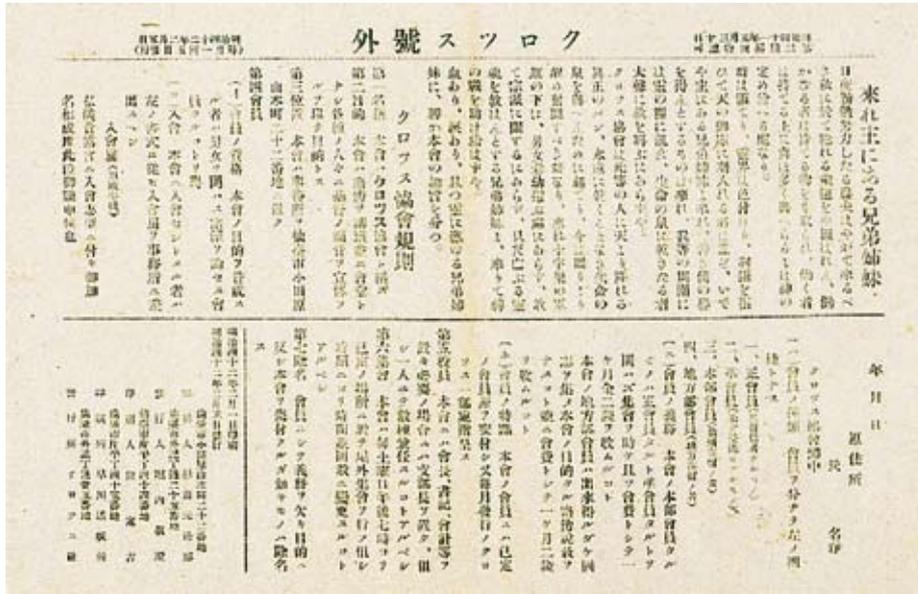
皆様のご意見をお待ちしております。

編集室では「2009年に賭ける」というキーワードにちなみ、読者の皆様からのご意見や感想を募集中です。ご応募は、住所・氏名・連絡先をご記入のうえ、下記のメールアドレスあてお送りください。

E-mail : uranos@t-gakuin.jp

杉山元治郎とクロス協会の結成

経済学部教授 ^{いわもと} 岩本 ^{よしてる} 由輝



クロス協会規則

杉山元治郎さんは活動的な人でした。1年のとき夏学期試験が7月6日に終わると、7月9日から2年先輩の熊井悌蔵とともに、富士登山を兼ねて無銭伝道旅行を取行します。途中、野宿をすることもありますが、途上の教会に宿を借りることも多くありました。そして路上での伝道説教とともに、教会での祈祷会において伝道説教をさせてもらっています。また、横浜では救世軍仙台小隊長の中根峯吉さんの紹介で典獄官舎に泊めてもらい、横浜監獄の囚人たちに伝道説教を行っています。そして小田原分監長の招きで小田原を訪れ、そこでも囚人への伝道説教をつとめています。のちに名説教師といわれるようになる杉山さんの話術は、こうして磨かれたといえましょう。このようなやり方に批判がないわけではありませんでした。8月4日に富士山頂に至り、帰仙したとき、杉山さんはそれなりの達成感を抱くことができました。

このあと、杉山さんは級友たちと

伝道団を組織し、仙台市の繁華街などで路傍布教、天幕布教を毎日のように実施します。初めのうちは、ヤクザやテキヤから「誰の許しを得てやっているのか」とすぐまれることもありましたが、杉山さんたちの毅然とした、ひるまない態度を見ると、そのうちに場所を空けてくれ、説教を聞いてくれる者も出てきたようです。

杉山さんがもうすぐ3年生になる1908年2月12日、杉山さんはこれまでの伝道団をクロス協会とし、機関雑誌「クロス」を刊行することとしました。クロス協会については、今のところ「来れ主にある兄弟姉妹」という呼びかけ文と「クロス協会規則」の存在が確認されているだけですが、その規則によれば「本会ハ路傍ヲ講壇並ニ会堂トナシ、各種ノ人々ニ基督ノ福音ヲ宣伝スルヲ以テ目的ト」し、「会員ノ資格」として「本会ノ目的ヲ賛成スル者ハ、男女ヲ問ハス、宗派ヲ論セス、会員タルコトヲ得」ということを掲

げています。そして杉山さんは2月21日の『日記』に、クロス協会の発足させたことについて「本日午後六時に四人して学院の門に悪魔に宣戦を布告したり。ハレルヤ、神よ御旨に任はば、守り助けて、あなたの御用に立たしめ給え。大に栄え、大に十字架の意義を万民に悟らしむるものとならしめ給へ。一時間は実に勝利の宣戦式なりき」と書き留めています。なお、四人とは杉山さんのほか、菅井喜七さん、堀内真澄さん、池田亀之助さんです。

杉山さんのこうした行動を、師である学院長のシュネーダー先生は暖かく見守っていたようです。1926年3月5日、労働農民党という無産政党が結成され、杉山さんがその執行委員長に選ばれたとき、杉山さんに激励文を送ったシュネーダー先生は「貴方がクロス協会を作ったときの気持ち、クロス（十字架）とともにという精神を忘れるな」という意味の言葉を伝えています。



TGUインフォメーション Information

平成20年度卒業式

3月24日(火) 時間 11:00~12:30 場所 仙台市体育館(仙台市太白区富沢)

卒業生を主役として、キリスト教大学にふさわしく、賛美歌を歌い、聖書の言葉を聴く礼拝形式で営まれます。

お問い合わせ先/総務部総務課 TEL.022-264-6412

※会場には駐車場がございませんので、公共の交通機関をご利用願います。



平成19年度卒業式の様子

平成21年度入学式

4月6日(月) 時間 10:30~12:30 場所 仙台市体育館(仙台市太白区富沢)

新入生を主役として、キリスト教大学にふさわしく、賛美歌を歌い、聖書の言葉を聴く礼拝形式で営まれます。

お問い合わせ先/総務部総務課 TEL.022-264-6412

※会場には駐車場がございませんので、公共の交通機関をご利用願います。



平成20年度入学式の様子

キャンパスカレンダー

2 February

1 SUN ▶ 3 TUE 一般入学試験(前期日程)

4 WED ▶ 5 THU 企業研究セミナー
会場: 仙台サンプラザ

9 MON ▶ 25 WED 第32回英会話集中訓練コース(春季)
会場: 土樋キャンパス
※土・日曜日、祝日を除く。

3 March

6 FRI 一般入学試験(後期日程)

24 TUE 平成20年度卒業式

4 April

6 MON 平成21年度入学式

7 TUE ▶ 12 SUN 新入生オリエンテーション
(キャンプを含む)

7 TUE ▶ 11 SAT 新入生歓迎行事

◎入試の詳しい日程については、大学のホームページをご覧ください。

本学硬式野球部の菅井監督に聞きました!

プロ野球の日本シリーズでMVPに輝いた

埼玉西武ライオンズの岸孝之投手(2007年3月経済学部卒業)へのメッセージ

—菅井監督から見て、在学中の岸投手はどんな選手でしたか?

とにかく足が速くて、天性のセンスとでもいったらいいのか、あらゆるボールゲームに卓越していました。もともと芯が強く勝ち気な面はありましたけど、急成長したのは3年のとき。「真のエースになれば」という指導をしたら、ひととき輝きを放つようになりましたからね。

—岸投手の4年間で、一番印象に残っていることは何ですか?

4年になって仙台六大学野球の春季リーグ戦で東北福祉大学を破り、悲願の優勝を果たしたときの涙は忘れられません。その試合の前まで3連投し、体は悲鳴をあげていました。優勝を決めたときは、一生分の涙を流したんじゃないかというほど、大泣きしていましたよ。屋内練習場もなければ、ナイター設備も備っていない。当たり前のことですが、たとえどんなにスポーツで活躍しても、ちゃんと単位を取らないと卒業できない。そんな環境の中で、岸もよく頑張ったと思いますね。

—岸投手のこれからの、エールの言葉をお願いします。

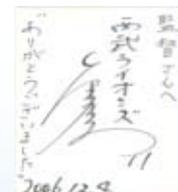
プロとしてやっていくためには、日頃からの摂生が何よりも大切です。ケガには気をつけて、自己管理をしっかり行いながら、一日でも長くプレーを続けて欲しいですね。チームの関係者、なかでも裏方として支えてくださっているスタッフの皆さんへの感謝の気持ちを忘れずに。



岸投手との思い出を語る菅井監督。



仙台六大学野球での東北福祉大学との一戦。



在学中、岸投手が書いてくれたサイン。

■土樋キャンパス
 大学院：文学研究科、経済学研究科、法学研究科
 法務研究科
 学 部：文学部・経済学部・法学部（各3・4年）、
 夜間主コース
 〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
 TEL.022-264-6411 FAX.022-264-3030

■多賀城キャンパス
 大学院：工学研究科
 学 部：工学部
 〒985-8537 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号
 TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

■泉キャンパス
 大学院：人間情報学研究科
 学 部：文学部・経済学部・法学部（各1・2年）、
 教養学部
 〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号
 TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

東北学院中学校・東北学院高等学校
 〒983-8565 仙台市宮城野区小鶴字高野123番1
 TEL.022-786-1231 FAX.022-786-1460

東北学院榴ヶ岡高等学校
 〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号
 TEL.022-372-6611 FAX.022-375-6966

東北学院幼稚園
 〒985-0862 宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号
 TEL.022-368-8600 FAX.022-309-2655

OTPAHOC

「OTPAHOC（ウーラノス）」は「天」を意味するギリシャ語です。使徒パウロは、終末の出来事について「台風の号令がゆかり、大天使の音が聞こえて、神のラッパが鳴り響くと、主御自身が天から降って来られます」（テサロニケの信徒への手紙二 4章16節）と告知しています。この箇所にも οὐρανός の語が用いられています。

OTPAHOC ウーラノス
 東北学院大学
 広報誌 vol.29

広報誌編集委員会

委員長	総務担当副学長	関谷 登
副委員長	総務部長	柴田 良孝
編集長	経済学部教授	原田 善教
委員	宗教部長	佐々木哲夫
	文学部教授	楠 義彦
	経済学部准教授	白鳥 圭志
	法学部教授	塩屋 保
	工学部教授	石川 雅美
	教養学部准教授	佐々木桂二
	総務部次長	鈴木 孝郎
	総務部総務課長補佐	斎藤 信二
	総務部総務課	藁科 明宏

東北学院大学広報誌「OTPAHOC（ウーラノス）」に関するご意見・ご質問をお待ちしております。

本誌における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて

本誌に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本誌に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本誌の無断転載はお断りしております。

発行日は、7月20日・1月20日です。

発行日 2009（平成21）年1月20日
 編集 東北学院大学 広報誌編集委員会
 発行 東北学院大学
 〒980-8511
 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
 TEL.022-264-6412 FAX.022-264-3030
 URL <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>
 E-mail uranos@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

我ら卒業生

出会いに感謝



取材におじゃました日は、丹波篠山の「黒豆の館」でライブを開催。エネルギーな門馬さんの歌声に、多くの観客が魅了されていました。「歌を聴いてくださるお客様によって、ステージは毎日が違う。それがステージに立つことの魅力でもあるんですよ」と門馬さん。

高校の理系コース出身で、これから伸びそうなコンピュータの分野に惹かれ、東北学院大学の工学部に入学しました。

大学時代はロックバンド部に所属し、4年生のときは部長を務めました。とにかく音楽が好きで、大学では「まず部室へ直行」という毎日でした。女の子4人の有志でバンドを組み、当時テレビで人気だった「イカ天（いかずバンド天国）」という番組に出場したこともあります。

夜遅くまで研究に熱中したことも懐かしい思い出です。研究室では先生の専門を飛び越えて、自分の興味のあるテーマ（1/F ゆらぎ）を自由に研究させてもらっていました。

関西の大手電器メーカーに大学の推薦枠で入社し、初代スカパーの開発などに携っていました。と同時に、歌（ボーカル）の専門学校にも通って

ましたが、やがてプロをめざすなら今しかないと思い、7年間勤めた会社を辞めて、歌の世界へ飛び込みました。

よく歌の仕事で福島に行きますが、スタッフが母校の卒業生だったりすると嬉しくなりますね。私の歌の源流はゴスペルなので、大学で神学の基礎を学べたことは、現在の仕事でも活かされています。一度社会人を経験したことで、私自身の裾野も広がりました。

好きな言葉は「感謝」。これまで多くの人に出会えたことや、今こうして歌えることに感謝の気持ちでいっぱい。出会いというのは自分を成長させてくれます。在学生の皆さんも仲間との出会いを大切にしながら、ぜひ自分のやりたいことを早い段階から見つけて欲しいですね。また大学には、与えるだけでなく、学生一人ひとりに選ばれる教育をして欲しいと願っています。

歌手

門馬 綾子さん

1991（平成3）年工学部応用物理学科（当時）卒業。関西の大手電器メーカーに入り、エンジニアとして初代スカパーなどを開発する。退社後、本格的な音楽活動を始め、2005（平成17）年にファーストアルバム「Reservation」をリリース。2006（平成18）年には第25回浅草ジャズコンテストボーカル部門で金賞を受賞し、第7回神戸ジャズクインコンテストでは「神戸ジャズストリート賞」を受賞した。仙台市出身。大阪市在住。

門馬綾子さんのブログ「もんちのはつぱ」<http://monti.blog.so-net.ne.jp/>



編集後記

暦の上で2009年という新しい年を迎えますと、2008年度の終わりを感ずるようになってきます。今年度の東北学院大学の歩みはいかなるものであり、どのように受け止められたでしょうか。様々な面でも東北学院大学らしさがあらわれていたでしょうか。アメリカでのサブプライム問題から明らかのように、いかに装いを新たにしても内容がなければすぐに馬脚を現すものとなってしまいます。遅々とした歩みであれ、120年余の歴史に裏打ちされた「らしさ」を伴う実体の充実があれば、大いなる発展の第一歩となると信じ、本学に課せられた社会的使命を十全に果たしていきたいと考えています。